

第336回 昭和の森自然観察会

生き物たちの冬支度

萩 将勝（千葉市）

日 時：2019年12月8日（日）13:00～15:00 天候：晴れ

参加者：23名（大人14名 子ども9名）

担当指導員：萩 将勝 小川 洋子 参加指導員：11名

前日の雨と打って変わって今日は風もなく晴天の観察会日和、今回のテーマは“生き物たちの冬支度” 23名の方が参加されました。

まずは挨拶、観察会について、j comの取材があること等々説明し、最後に公園の方も災害後の昭和の森の現状を説明されました。

さあここから観察会へ出発です。まずは2本のケヤキの大木に2組に分かれて「さあここで虫を探してごらん」といっても、皆どう見つけばいいかわからない。割れて落ちそうな表皮をむいてごらん、見ると小さいけどいる、いる、体長1～2mmのゾウムシ・ハエトリグモ・テントウムシ・ムカデの赤ちゃん、虫眼鏡で観察しました。

この寒いのにまだエノキの葉の上にいるアカボシゴマダラの幼虫を観察し、エノキの大木に行く。チョッと見にくい、くぼみの中にヨコヅナサシガメの幼虫が集団越冬をしている。一匹落として観察する。真っ黒な体に白と赤の小さい点、お腹は赤、綺麗だな！ 気持ち悪い等々 感想はまちまち。

モグラ塚の沢山ある場所へ移動、メダケの先にコルクをつけた探査棒で参加者各自が穴がどの様に進んでいるか 中をつついてもらう。「ここの穴とここの穴がつながっている。」等々、楽しんだ後、モグラの生態を説明し、クイズを行いました。

次に予め桜の木にこもを巻いて置いたところへ移動、こも巻きについて説明し、さあ何がいるか、こもを剥がす。皆興味津々。剥がした後の木の幹にはびっしりとワラジムシ・ダンゴムシのみ、期待していたカメムシ・テントウムシ・蛾の幼虫はゼロ。

次は林縁に沿って葉っぱの裏・落ち葉の中・枯葉の中に隠れている虫たちを見つけてみよう、とんとん作戦（葉・繁みをたたいて落ちた虫を捕まえる）を皆で体験してもらい捕まえた虫たちをプラスチックのカップの中に入れて、持寄り観察する。クモが多い、カメムシ・ナナホシテントウ・ゴミムシ等々捕獲できました。予め見つけて置いた、ホソミオツネントンボ・蛾の蛹・オビガレハの卵を観察する。昆虫の越冬は、卵・幼虫・蛹・成虫があるのだね。最後にエノキの幹に産み付けられたハラビロカマキリの卵鞘を観察し、終わりました。

虫が主でしたが冬でもこんなに多くの生き物がいることを実感していただけたと思います。



参加された女の子さんが記録されたイラスト